

トランスオミクス医学研究拠点ネットワーク形成事業(概要)

— 九州大学(生体防御医学研究所)、東京医科歯科大学(難治疾患研究所)、徳島大学(先端酵素学研究所)、熊本大学(発生医学研究所) —

事業の目的

世界で初めてトランスオミクス研究の共通プロトコルを開発し、研究プラットフォームの構築と人材育成を行う。

取組内容

- 各拠点の強みや特色を生かし2、3種類のモデル細胞を対象として共同で技術を開発し、共通のトランスオミクス解析プロトコルを確立。
- 得られた技術を拠点間で共有し、実用化のための研究プラットフォームを確立。
- 拠点間のネットワーク事業を推進するため、ネットワーク形成推進会議(仮称)を設置し、本事業の企画・調整・運営を行い、連携支援室(九州大学)が支援。
- ネットワークの利点を活かし、合同研究シンポジウム、研究員派遣と交流、技術講習会等を通じて人材育成を行なう。バイオインフォマティクス分野の人材育成を特に推進し、オミクスデータを統合解析できる研究者を各拠点で育成(学術研究員又はテクニカルスタッフ)。
- 共同利用・共同研究拠点として開発した技術、設備、データを世界に向けて公開。

必要性・緊急性

- ✓ オミクス(網羅的生体分子情報)の横断的解析技術の開発が急務。
- ✓ 第22期学術の大型研究計画(マスタープラン2014)に選定。
- ✓ 疾患マーカー開発や創薬に大きく貢献。

実施体制

